



ベイ★キッズ

横浜子育て応援マガジン

FREE 2020 SUMMER vol. 037

対象エリア: 西区・中区・神奈川区・保土ヶ谷区・南区

そのハナシホントですか?

CONTENTS

Credit スタッフ:東恵子/鳴神美穂子/船本由佳
ベイ★キッズ みなとくらす〜色あずさ 本田真弓
真栄城舞 デザイン:川本智子
協力:あそびい横浜・横浜市こども植物園

02



特集

教えて!
情報の選び方・受け取り方

前代未聞のSTAY HOME!

03



まちすき「むっくふんど」代表
成瀬優子(むっく)さん

身近でできるSDGs

夏のお届け便 アサカオ
パパとあそぼう アンケート編

04



こどもと一緒に楽しもう
夏野菜のらくちんレシピ



のげやまくん

●編集・発行/ベイ★キッズ編集部[NPO法人シャーロックホームズ] 〒220-0002 横浜市西区南郷井沢18-1-110 TEL.045-324-5033 FAX. 045-548-4514 http://baykids.jp info@baykids.jp

* 情報提供や広告掲載に関するお問い合わせは上記まで。* 紙面の無断転載を禁じます。

予備知識のない情報を判断するには?

インターネットで情報を得やすくなった分、本当なのかデマなのか迷うことがありますね。特に情報に振り回されるのははじめて聞く情報に出会った時です。子どもや子育て初心者はニュースだけでなく育児や教育についてなど、今後多くの“初耳情報”に接する存在。初めての情報を受け取る



時、情報にも注意すべき”
3密”がありますのでご紹介し



今回の取材はWEB会議システムを利用して勉強会形式で行いました。赤ちゃんもママと参加

情報の3密に要注意

【密閉情報】

情報源が一つしかない状態。密閉せず、情報を受け取る窓を広げて新鮮な情報を入れよう!子どもの「こうなんだって」には「他の情報も聞いたの?」と尋ねてください。一つの情報だけでは判断できません。他の情報と並べた時にわかってきます。密閉しちゃダメですよ。

【密集情報】

”いいね”がたくさん集まって、突然ブームになる情報には要注意。ネットの情報は過激なものほどみんなが反応します。反応人数と信憑性とは関係ありません。1万リツイートされていて元が同じ情報だったら「一つの情報」とカウントしましょう。「みんな言ってる」に踊らされてはいけません。

【密接情報】

デマもウイルスと同じで、接点の多い人からうつりやすいです。ネット情報を警戒している人も、その情報を友だちや家族経由で聞くと信じてしまいがち。その人の人柄と情報の信憑性は関係ないです。

横顔で伝えよう メディアリテラシー

予備知識のない情報を「ただ気をつける」のは難しい。「どうやって気をつけるか」です。メディアリテラシーは対面して教えるのではなく、横顔で教えましょう。テレビやスマホの方に親子一緒に視線を向けながら、横に座って、おまじないのように下の()内の言葉をつづやいてください。

デマの感染を防ぐ
4つのワザ キーワードは そうかな

- そ 即断しない(まだわからないよね?)
- う のみにしない(意見・印象じゃないかな?)
- か かたよらない(他の見え方もないかな?)
- な なかだけ見ない(隠れてるものはないかな?)

◆お話を伺った方 下村健一さん

小学校教科書「国語5年生」(光村図書)に掲載されている「想像力のスイッチを入れよう」の筆者。元TBSアナウンサー。元内閣審議官(首相官邸広報担当)。白鷗大学で教鞭をとる。著書に、仕掛け絵本「窓をひろげて考えよう」、「10代からの情報キャッチボール入門」など。《そうかな》の使い方が、より具体的にわかります!



今後子どもが情報端末を扱う機会も増えていきます。初耳の情報をどう受けとめますか?

その情報「まだわからないよね」「窓」を広げて情報を受け取ろう!



「まだわからないよね?」

即断しないようにしましょう!

「この薬が効くらしい」「ぬるま湯を飲むと予防できる」…。予備知識がないと真偽を見極めるのは難しい情報が回って来ることがあります。そこですぐに信じないことが肝心。“保留”して続報を待ちましょう。「週末は外出して大丈夫か」など暫定的な「今の見方」は必要に応じて決めていいでしょう。しかし今の見方によって明日の見方を自分で縛らないように。「まだわからないよね」とつぶやいている親の顔を横から見ることで「すぐには断定しないものなのだな」と子どもがわかっていきます。「固めずに置こう」は誰にでもすぐにできますよ。



「意見・印象じゃないかな?」

うのみにしない

大概の情報は「情報本体」と「伝え手の意見」が混ざってしまっています。情報が出たら、表面の飾り(伝え手の意見や印象)は拭き取って、本体の事実描写を見極めましょう。確実性の高い表現と「ばい」表現の違いは、じつと見ると予備知識がなくてもかなり識別できます。事実と分けて考えましょう。



「他の見え方もないかな?」

かたよらない

一つの見方に偏らず、他の方向からも見ていきましょう。一番シンプルな方法は他の情報源を探すこと。A新聞はこう言っているけど、B新聞、C放送局はどう言っているの?友人とのおしゃべりもネット情報も同じです。勘違いの誤報や偽の情報“フェイクニュース”もあります。ショッキングなニュースを「大変だ!」と拡散する前に1分でいいから他の情報源があるかを見てみましょう。行政のホームページなど、大元の情報を確認すれば落ち着きを取り戻せます。自分で情報源に当たれるようになったのはインターネット時代のいいところ。子ども達が何かの噂を信じていたら「一緒に調べてみよう」と言って、クリックして他に情報源があるかどうかを見てみましょう。裏付けを調べることの大切さを伝えられます。



「隠れてるものはないかな?」

なかだけ見ない

情報は常に、スポットライトに当たっている一部だけが伝わってきます。そこだけが全世界と思わないこと!スポットライトの周りの暗がりには他の情報はないでしょうか。届いているのは「選ばれた」情報です。他に「選ばれてない、伝えられていないかもしれない事は?」と考えるようにしましょう。情報そのものの見え方が変わってくる可能性があります。情報の周りに想像を広げましょう。

上の4つを試していけば”デマウイルス”にはかなり感染しなくなります。ただ、これで絶対に騙されないとは限らないのです。世界中のメディアもフェイクニュースに振り回されており万能薬はありません。ただ「情報災害」という意味でいうと”防災”は無理でも”減災”はできます。

人類の長い歴史から見ると、インターネット時代がスタートした時点に私たちは生きていて、親も子どもも同じラインに立っています。安全に使うための意識やルールを作るのは私たち。狭い窓からの情報だけで判断するのではなく、情報は「窓を広げて考えよう!」

